

序

年報 Vol. 4 が発刊の運びとなりました。研究所が発足して、5 年、新庁舎が建設されて 3 年を経過しました。“5 週年”，または“七五三”のように、一つの節目を迎えたわけでもあります。ご覧のとおり、この年報は、節約型で、ささやかではありますが、5 年をふりかえり、将来を期する意味で、研究報告の経緯が、昭和 46 年より 51 年までの業績目録を含めました。

公害研究所の使命・業務は、申すまでもなく、多様化した川崎市の公害行政のニーズに応じた試験研究のみならず、公害対策推進に役立つ、広い視野に立った環境科学の研究であると考えます。

大気汚染、水質汚濁、騒音振動の調査測定、研究など、一見、日常業務のように見えるものも、科学技術の最先端に行くためには、たえず、地道な努力の積み重ねが不可欠であります。当所は建築面積約 1683㎡、職員 32 名で規模としてはあまり大きくありませんが、高度の技術を要する多量の試験業務に日常対応している経緯が、研究にも意を用いています。さいきんの研究で特筆すべきものとして、塩化ビニールモノマー、3・4 ペンツピレンなど発がん性物質の調査研究があります。

3 年、5 年の地道な精進が力強い芽を出しつつあります。これらの芽が沢山成育するよう、研究所の一層の充実に努力いたしたいと考えています。関係各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

昭和 52 年 3 月

川 崎 市 公 害 研 究 所 長

寺 部 本 次